

平成29年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

| 重点課題 | | 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す | 学校関係者評価 学校関係者の意見 | 次年度への課題と 今後の改善方策 |
|--|---|------|--|---|--|--|
| リーディング ハイスクール 事業の推進 ① 中高一貫教育の推進 | (全校レベル) 中高一貫教育校のメリットを最大限に活かし、本校の活性化に役立てる。 (下位組織レベル) 中学生と高校生の良好な関係構築。中高教職員の緊密な連携による組織の活性化。中高が連携したPTA活動の充実。 | 評価指標 | 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上。「勉学・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上。 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上。 「高校生は中学生の模範となるような学校生活が送れている」と答えた生徒・保護者・教職員が50%以上。 「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が50%以上。 | 評価指標による達成度 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒79%(-1p)・保護者89%(+4p)。 「勉学・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒90%(-2p)・保護者93%(+5p)。 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者85%(±0)・教職員92%(-6p)。 「高校生は中学生の模範となるような学校生活が送れている」と答えた生徒42%(-11p)・保護者84%(+7p)・教職員69%(-13p)。 「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒60%(-5p)。 | 総合評価 B (評定) (所見) 評価指標上の目標値は、ほぼ達成できているが、「高校生は中学生の模範となるような学校生活を送れている。」に肯定的な生徒、教員の割合が低く、それぞれに課題があると考えていることがわかる。 中高合同で行事・作業・部活動などを行うことで、中高生の交流が図れ、中学生を意識し、模範となり良好な関係を築こうとする高校生がもっている反面、生活面や学習面で中学生の模範とはならないと考えている生徒、教員が多い。 依然として生徒・保護者・教職員間の意識の乖離が各項目とも大きい。教員について、中高合同の活動についてさらに踏み込んだ取組や組織づくりをさらに進める必要がある。 | 行事や部活以外に、継続的な活動内容での交流が少ないようである。日常的に交流できる場を増やし、高校生の優れている面を中学生が実感できる場をつくる必要がある。 |
| | | 活動計画 | ①中高職員合同の運営委員会を月1回以上、PTA役員会を年4回以上開催する。 ②城ノ内祭等の行事を中高合同で行う。 ③部活動(一部)で中高合同の練習・活動を行う。 | 活動計画の実施状況 ①中高合同で運営委員会を月1回以上、PTA役員会・理事会を年4回開催し、そのほかにも職員会議、人権教育研修会・コンプライアンス研修会などを開催し、共通理解を図った。 ②城ノ内祭・予餞会・防災避難訓練・人権教育映画会・総合学習発表会などを中高合同で開催した。 ④美術部や演劇部など6部で合同練習を行った。 | | |
| リーディング ハイスクール 事業の推進 ② 確かな学力と進路観の育成 | (全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、全生徒の進路希望実現を目指す。 (下位組織レベル) よりよい指導計画や指導方法の工夫・改善。全ての教師集団の協力による組織的な進路指導体制の構築。確かな進路観や職業観の育成。 | 評価指標 | 「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が80%以上。「生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができています」と答えた生徒・保護者が80%以上。 「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒・保護者が80%以上。 | 評価指標による達成度 「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒80%(-1p)・保護者82%(+7p)・教職員93%(+1p)。 「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が96%(±0)。 「生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができています」と答えた生徒80%(+1p)・保護者が78%(+1p)。 「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒77%(±0)・保護者81%(+1p)。 | 総合評価 A (評定) (所見) 各評価指標とも目標をほぼ達成している。特に、「わかる授業への取組」に関する項目で、教職員の肯定的な回答が一昨年度より大きくなっていて、アクティブ・ラーニングやICT活用の教育への取組に教職員自身が自覚を持って熱心に取り組んでいることがわかる。さらに客観的に授業を振り返り、わかる授業、学力向上を目指した授業改善に取り組む必要がある。「進路・悩み相談」の評価においても、目標はほぼ達成し、良好な評価ではある。学年集会、進路講演会などは昨年より回数を増やして実施しているが、生徒の反応は概ね良好であった。 授業評価・学習実態調査について、回数は実施できているが、実施だけに留まらないように、結果の検証、事後対応についての時間の確保など課題は残っている。 | 県内全域から、高い能力・資質を持っている生徒が集まっているので、より高められるように努めてほしい。 |
| | | 活動計画 | ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③進路に関する学年集会や講演会、及び大学講師等による出張講義を実施する。 ④学習実態調査と進路希望調査を実施する。 | 活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年15(昨年11)回実施した。また、アクティブラーニング及びICT活用についての授業研究会をを外部から講師を招き2回行った。 ②授業評価を2回実施した。 ③計画的に学年集会や講演会等を実施した。 ・学年集会(4年6回, 5年9回, 6年11回) ・進路講演会(4年3回, 5年3回, 6年2回) ・出張講義(4年1時間, 5年2時間) ④学習実態調査(4年9回, 5年9回, 6年6回)及び、進路希望調査(4年3回, 5年4回, 6年2回)実施した。 | | ①授業改善について、たゆまぬ努力を続けているが、アクティブ・ラーニングやICT活用について、さらに先進事例や教材の充実に努められるような、予算、時間の確保を、各教科会を中心として進める。 ②新テストの実施など、進路指導の面の変化にいち早く正確な情報を得て、よりよい進路指導体制を構築するためにも、職員会や資料交換など情報交換検討の機会をさらに増やす。 ③進路指導について全員が個別指導にあたる取組をはじめているが、課題を検証して、さらに充実を図る。 ④週35時間授業に適した教育課程の検討を引き続き行うとともに、授業時数を確保し、先取り学習や単位制のメリットを最大限に生かしたシラバス作成を各教科で完成させる。 |

| 重点課題 | | 重点目標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と今後の改善方針 |
|---|--|--|---|-----------|----------|-----------------|
| | | 評価指標と活動計画 | 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す | | 学校関係者の意見 | |
| 人権教育の推進 | (全校レベル) | 評価指標 | 評価指標による達成度 | 総合評価 A | 学校関係者の意見 | 次年度への課題と今後の改善方針 |
| | すべての教育活動で人権教育の推進を図る。 | 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 | 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒75%(+6p)、保護者85%(+5p)、教職員90%(+4p) 「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒70%(+2p)、保護者83%(±0)、教職員73%(-11p) | | | |
| | (下位組織レベル) | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (評定) | 学校関係者の意見 | 次年度への課題と今後の改善方針 |
| ホームルーム活動や学校行事の充実。 | ①人権ホームルーム活動の研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会等を実施する。 ④職員研修を充実する。 | ①各学年で研究授業を実施するとともに、毎回、事前研修会を学年別実施した。 ②全校生徒を対象に人権教育意見発表会を実施した。 ③5年生を対象に人権問題講演会を、また4年生対象に「スマホ・ケータイ安全教室」を実施した。 ④中高合同の教職員校内研修会を2回、地域研修会を1回実施した。 | (評定) 総合評価 A | | | |
| 基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養 | (全校レベル) | 評価指標 | 評価指標による達成度 | 総合評価 B | 学校関係者の意見 | 次年度への課題と今後の改善方針 |
| | 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。また、いじめを絶対許さない姿勢を示し、いじめの未然防止に努める。 | 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。 「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「城ノ内生としての自覚を持った行動ができている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「服装頭髪について校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 | 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者74%(+1p)・教職員88%(+2p)。 「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒41%(-13p)・保護者79%(-1p)・教職員33%(-9p)。 「城ノ内生としての自覚を持った行動ができている」と答えた生徒63%(-8p)・教職員が66%(-16p)。 「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒78%(-4p)・保護者96%(+7p)・教職員90%(-8p)。 「服装頭髪について校則が守られている」と答えた生徒52%(-18p)・保護者88%(+1p)・教職員76%(-20p)。 | | | |
| | (下位組織レベル) | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | (評定) | 学校関係者の意見 | 次年度への課題と今後の改善方針 |
| 「挨拶の励行」の徹底。 【城ノ内生としての自覚ある行動】の推進。 服装等初指導の徹底。 積極的ないじめの認知と対応。 | ①挨拶指導を徹底する。 ②遅刻者は「遅刻カード」を提出する。 ③自転車の駐輪のしかたを指導する。 ④服装頭髪検査を定期的実施する。 ⑤学校生活に関するアンケート(いじめを含む)を年2回実施する。 ⑥家庭との連携を図る。 | ①全教職員が直接指導を行った。また、月に1度登校時に生活委員によるあいさつ運動を行った。 ②授業遅刻も含めたすべての遅刻者は「遅刻カード」に理由を記入し、教頭の指導を受けてから入室させた。 ③年度当初は係の者が、それ以後は日直の教員が直接指導を行った。また、盗難防止のため自転車の鍵かけを呼びかけた。 ④定期的(学期に2回程度)に、全校集会や学年集会で服装頭髪検査を実施した。 ⑤いじめの項目を含む学生生活に関するアンケートを年2回実施し、内容について検討、面談等で対応した。 | (評定) 総合評価 B | | | |

平成29年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

| | | 自己評価 | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と今後の改善方策 |
|-------------------|---|--|--|------------------|---|
| 重点課題 | 重点目標 | 評価指標と活動計画 | | 学校関係者の意見 | |
| | | 評価指標 | 評価指標による達成度 | | |
| 災害を迎え撃つ防災・安全教育の徹底 | (全校レベル) 防災・安全教育を徹底し、災害へ備えるとともに、事故防止に努める。 | 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 | 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒64%(-3p)・保護者75%(±0)・教職員76%(-8p)。 「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒54%(-1p)・教職員が50%(-14p)。 | 総合評価 B | 自転車の乗り方や交通マナーやついて、「当たり前」と思われることも知らず、わかってないから「できない」こともある。丁寧に指導を継続することが大切である。 |
| | (下位組織レベル) 防災意識の高揚に努め、防災への取組推進。 交通ルールや交通マナーの遵守に向けての取組推進。 | 活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ②毎月1回交通マナーアップ運動を行う。 ③交通安全教室を実施し、安全教育の徹底を図る。 | 活動計画の実施状況 ①防災避難訓練(地震・津波)を1回、火災を想定した避難訓練を1回実施した。また、「防災クラブ」の活動として地域の方をお招きして、「炊き出し訓練」を行った。 ②毎月1回、生徒会役員・生活委員と教員による交通マナーアップ運動を展開した。また警察と連携し、自転車運転マナーや防犯意識向上のキャンペーンを行った。 ③外部講師による交通安全教室を実施した。 | | |
| 環境教育の推進 | (全校レベル) 環境教育への取組を推進し、学習の場にふさわしい環境を整える。 | 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・教職員が80%以上。 「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。 | 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒65%(-2p)・教職員74%(±0)。 「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒62%(-4p)・教職員70%(-4p)。 | 総合評価 B | 設備面で仕方のないところもあるの で、予算を確保して、できることから修理するのは大切だ。 |
| | (下位組織レベル) 清掃への積極的な取組、美しい環境の維持。 ゴミの分別や節電・節水への取組。 | 活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②吉野川堤防清掃活動や学校周辺清掃活動に年3回以上取り組む。 | 活動計画の実施状況 ①教室、職員室等、全ゴミ箱で分別回収の徹底に努めた。 ②吉野川堤防清掃活動を、中高合同で、7月、10月、12月の3回実施した。また、外庭清掃にも力を入れ、30分の大掃除を3回、除草作業も2回実施した。 ③年間の使用電力量、使用水量や経費を掲示し、節電・節水への意識向上に努めた。 | | |

平成29年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

| 重点課題 | | 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す | 学校関係者評価 学校関係者の意見 | 次年度への課題と 今後の改善方針 |
|--------------------------|--|---|---|--|--|--|
| 特別活動の 活性化 | (全校レベル) 学校行事や部活動 を充実させ、学校 全体を活性化する。 | 評価指標 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70&以上。 「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 | 評価指標による達成度 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒83%(-7p)・保護者87%(-3p)・教職員86%(-10p)。 「部活動は活発である」と答えた生徒77%(-5p)・保護者75%(-10p)・教職員72%(-10p)。 「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒84%(-1p)・保護者83%(-2p)・教職員94%(-3p)。 | 総合評価 (評定) A (所見) 評価指標上の目標は、すべて達成できているが、全体的に昨年と比較してやや下降気味である。 学校行事はほとんどの生徒が、主体的・積極的に取り組んでいる。 部活動での評価の低下は、7時間授業により活動時間が少なくなり、学習時間の確保への取組がより進む中で、活動しにくい状況が増えているように意識されているのかもしれない。 部活動と勉強の両立に関しては、努力をしている生徒が多く、保護者、教職員ともその頑張り認め応援している。 | 7時間授業や塾通いなどで生徒も多忙であるが、部活動の果たす役割は大きい。練習のできる環境を確保してやってほしい。 | ①学校行事について、精選と充実を4月当初の職員会で議論し、6年間を見据えて効果的に体系的に実施できるように検討を進める。 ②部活について、より効率のよい練習を工夫し、部活動と勉強の両立ができるように各部が努めていく。 ③各行事、特に城ノ内祭について、生徒の安全に留意して計画を見直す。城ノ内祭模擬店における指導を強化し、食中毒や事故の危険性をさらに低減させる。 |
| | (下位組織レベル) 学校行事の内容の充実。 部活動の活性化。 部活動と勉強の両立。 | 活動計画 ①学校行事の内容を充実させる。 ②部活動を活性化する。 ③ノ一部活デーの徹底や考査前の活動自粛など、部活動と勉強の両立体制を確立する。 | 活動計画の実施状況 ①文化祭、体育祭、球技大会などの学校行事は、生徒会主体に運営され、生徒も積極的に参加した。 ②部活動加入率は4年86(昨年87)%、5年86(昨年88)%、6年82(昨年89)%[4月末現在]。 ③全部活動で、考査期間中の活動を届出制とし、試合等が近い部に限り原則1時間以内という制約を設けて実施した。 | | | |
| 開かれた学校づくりの推進と郷土愛を育む教育の推進 | (全校レベル) ホームページを充実し、学校を公開する機会をつくる。地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。 | 評価指標 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者が70%以上。 ホームページの更新にすべての教員が関わり、少なくとも週に一度は更新する。 「中学校体験入学や学校公開の日、文化祭の公開は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が70%以上。 「自然体験活動やゴルフ研修など地域資源を生かした多様な体験・交流活動が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 | 評価指標による達成度 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者が80%(+1p)。 ホームページの更新にすべての教員が関わり、行事や部活動についての最新の情報が更新されている。 「中学校体験入学や学校公開の日、文化祭の公開は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者93%(+3p)・教職員94%(+13p)。 「地域資源を生かした多様な体験・交流活動が行われている」と答えた生徒81%・保護者85%・教職員が60%。 | 総合評価 (評定) A (所見) 開かれた学校づくりに関する評価指標の目標は、ほぼすべて達成できている。体験入学、文化祭や学校公開は、本校を理解してもらうのに効果的であると判断できる。今後も充実させながら継続していく必要がある。 昨年度より、中学生体験入学の人数が減っているが、他校と日程が重なったことが影響した。9月と12月の2回、本校において中学生とその保護者、教員対象の高校説明会を開催して、参加人数は昨年より増えている。 また、ホームページも活発な情報発信を継続できており、内容も充実している。アクセス件数が過去2年間で40%も増加していたが、3年前の水準に戻った。 「地域に根ざした活動」については、項目をわかりやすい表現にすることで評価は上がったが、全県一区で県内各地から登校している生徒が「地域」の意味を理解しにくい状況は続いている。 | HPなどで情報提供がよくできている。 <全体的に> ・「挨拶」や「交通安全」など特に重点とするテーマを決めて取り組んではどうか。 | ①本校の理解、周知に向け、中学生体験入学の参加者がさらに増えるように、日程を検討するとともに、内容の一層の工夫充実を図り、広報活動にも力を入れる。 ②中等教育学校への移行の時期に高校からの入学志願者を確保するため、中学校での進学説明会や中学校訪問により高校の積極的なPR活動を行うとともに、本校での高校説明会開催を継続する。 ③各部、各課に依頼して、ホームページの新着記事を増やし、更に充実したものにする。また、新聞やテレビなどの取材に積極的に応じて、学校のPRに努める。 |
| | (下位組織レベル) ホームページ等を通じた情報発信の充実。 中学生体験入学や学校公開の日、文化祭の公開など学校公開の機会の充実。 地域に根ざした体験活動・行事の実施。 | 活動計画 ①ホームページを随時更新する。 ②スクールガイドを発行し、中学生体験入学を実施する。 ③「学校公開の日」を実施する。 ④文化祭を公開する。 ⑤自然体験活動やヨット研修、ゴルフ研修など地域資源を生かした多様な行事を実施する。 | 活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は442,133回(昨年比21%減)、総アクセス数3,247,804回(2018/2/7現在) ②スクールガイドを発行した。中学生体験入学への参加者196名(昨年311名)。 ③学校公開の日への参加者596(昨年553)名。 ④文化祭を公開し、2074(昨年2056)名が来校した。 ⑤4年生で自然体験活動を6年生でゴルフ研修を実施した。その他、吉野川堤防清掃を実施した。 | | | |